

## 平成 24 年度 病虫害発生予察 特殊報 第 1 号

病虫害名： ヨツモンカメノコハムシ  
*Laccoptera nepalensis* Boheman  
対 象： サツマイモ

### 1. 特殊報の内容

ヨツモンカメノコハムシの発生と被害を都下(大島町, 三宅村)で初めて確認した。

### 2. 発生経過

- (1) 本種は沖縄本島以南、中国南部、台湾、インドシナ、ミャンマー、インドなど熱帯～亜熱帯に分布し、サツマイモの重要害虫である。1999 年に長崎県で確認され、02 年に鹿児島県、08 年に宮崎県で発生した。09 年には静岡県東部のサツマイモでも発生が確認された。
- (2) 2012 年 6 月 1 日、東京都大島町北部のサツマイモ圃場において成虫および幼虫の発生と食葉被害を確認した。7 月 11 日には東京都三宅村のサツマイモ圃場においても幼虫の発生と食葉被害を確認した。
- (3) 現在までに、大島町では全域でサツマイモおよびノアサガオで卵、幼虫、成虫の発生と被害を確認した。一部の圃場では多発状態であった。また、三宅村での発生も全域で認められた。

### 3. 形態 (第 1～4 図; 成虫・幼虫・卵)

- (1) 成虫はやや扁平な楕円形で、体長 7.5～9.0mm。やや艶のある茶褐色、周縁部は半透明の黄褐色で、上翅前方および後方側縁部に黒褐色の斑紋をもつ。上翅点刻間室には顕著な隆起条があり、シワや点刻が目立つ。触角の先端 2 節は黒褐色。
- (2) 幼虫、蛹は扁平な紡錘型で、体側などに柔らかなトゲ(樹枝)状突起を有する。若齢期は黄褐色で成長するに従って褐色となる。脱皮殻や糞を尾端に付けて、背面に背負うようにして行動する。
- (3) 卵は 4mm 内外の楕円形の膜(表面は排泄物と思われる褐色分泌物で覆われる)に包まれる。

### 4. 生態 (第 1 図)

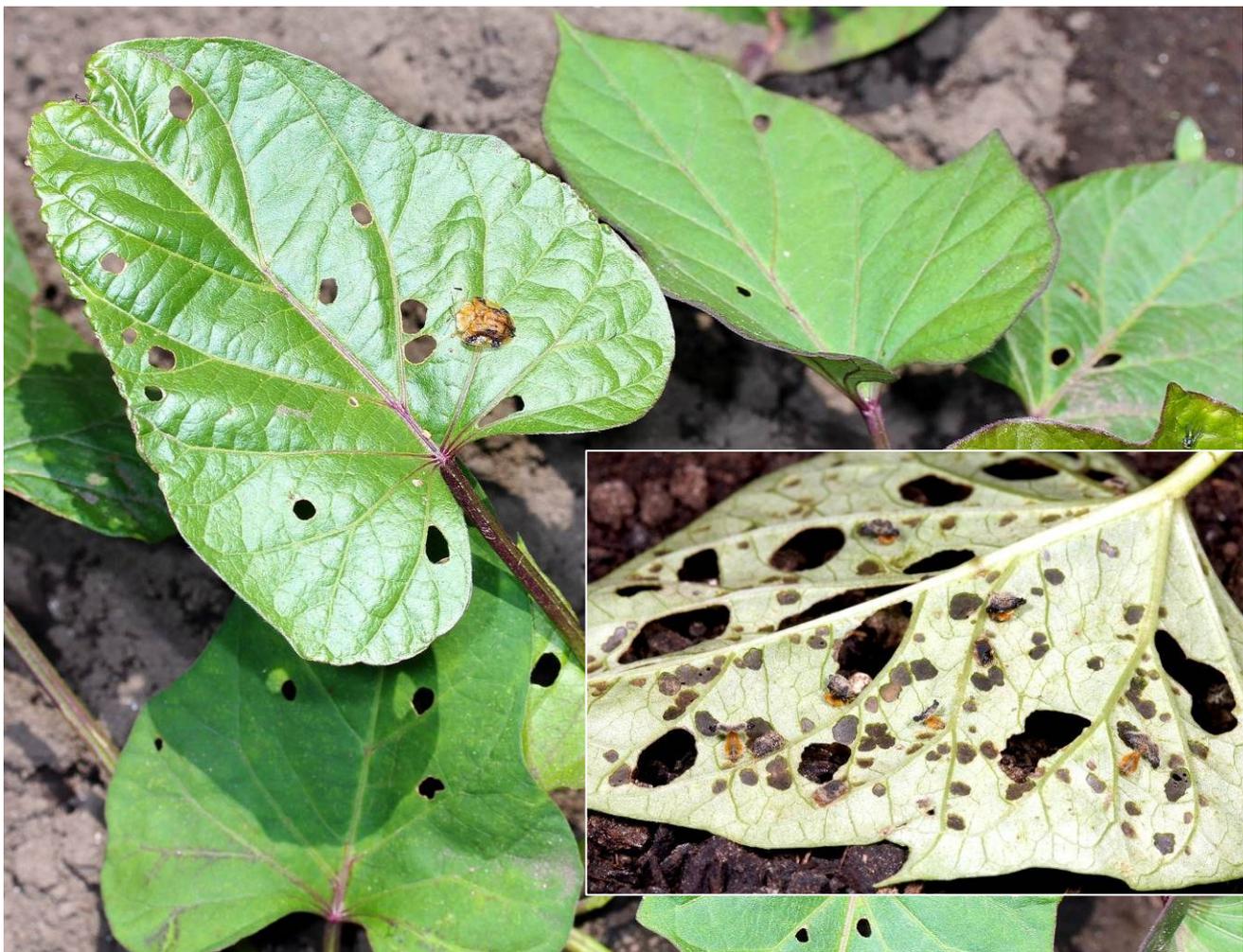
- (1) 成虫、幼虫ともサツマイモ、ノアサガオなどの葉を食餌とする。産卵、蛹化も主に葉裏で行われる。
- (2) 成虫は日中も良く活動する。幼虫は葉裏から食害する。
- (3) 4～11 月まで 3～4 回の発生を繰り返し、南西諸島では成虫で越冬し、暖かい日には活動する。

### 5. 被害 (第 1 図)

- (1) 幼虫、成虫が展開葉を主に葉裏から食害することにより数ミリ～1cm 程の円形～不定形の食害痕を残す。発生が多いと展開葉の多くが穴だらけとなり、生育に影響する。

### 6. 防除対策および注意

- (1) 成虫は日中も活動するので見つけたら捕殺する。食痕のある葉を裏返して、幼虫や卵が寄生している葉は取り去る。採穂用の苗床などでは防虫網を設置するなどして成虫の侵入を防ぐ。
- (2) 発生が多い場合は、登録農薬であるスミチオン乳剤 1,000 倍を散布する(収穫 7 日前まで、5 回以内)。
- (3) サツマイモ圃場周辺にノアサガオ、ヒルガオなどを放置しない。
- (4) 苗等の移入、移出時には注意する。



第1図 サツマイモ葉の被害と成虫（図中右は葉裏の幼虫と食害痕）



第2図 成虫



第3図 若齢幼虫と孵化後の卵膜



第4図 葉裏に産み付けられた卵